

令和7年度 富士見台小学校 学校経営方針

校長 田中 良行

はじめに

今年は開校75周年を迎えます。1年生も久しぶりの3学級編制となり、活気のある新学期を迎えることができました。コロナ禍でスリム化された良い一面は継承しつつ、子供たちへの指導・支援の充実、保護者・地域の方との連携、教職員の働き方改革の推進等のバランスをとりながら、子供たちに「挨拶・笑顔・感謝」の和が一層広がるよう教育活動を進めてまいります。

教育目標

元気いっぱい さわやか笑顔
かがやくひとみで 未知にチャレンジ

「元気いっぱい」な児童の育成のために

1. 体力の向上

授業や体育的活動から運動の日常化と環境整備を図り、運動遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲を養い、体力の向上を図る。

- (1) 「体力調査結果の分析・課題把握」を行い、本校における重点強化事項を明確にする。
- (2) 「運動意欲」を高めるために、体育的行事・授業を充実させ、系統的・継続的な取組を実践する。
- (3) 休み時間の「外遊び」を推奨し、体を動かして遊ぶことの気持ちよさを味わわせる。

2. 健康教育・安全教育の推進

- (1) 養護教諭による保健指導を計画的に行い、児童が自分自身の健康に対する関心と保持及び向上への実践力を高めるとともに、感染症予防の徹底を図る。
- (2) 外部講師による特別授業や給食後の歯磨きの実施等を通じて、児童の口腔保健の向上を図る。
- (3) がん予防の児童や保護者の意識を高め、がんにならない健康な体づくり、生活習慣づくりを推進する。
- (4) 食育を柱とした給食指導、衛生管理の徹底、食物アレルギーのある児童への適切な対応をする。
- (5) コミュニティ・スクール(CS)として、保護者や地域の方との連携を一層図ると共に、10年間のインターナショナルセーフスクール認証校としての実績を踏まえ、安全な学校の仕組みづくりについて一層の充実を図る。児童には、避難訓練や安全教室等を通して、予想される危険に対する対応力や実践力を高め、「自分の命は自分で守る」という意識をもたせる。

「さわやか笑顔」な児童の育成のために

1. コミュニケーション力を高める合い言葉 「挨拶・笑顔・感謝」

- (1) 「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶ができる児童、呼名されたら「はい」と返事ができる児童を育てる。そのためには、教職員が率先して挨拶・返事をする。
- (2) 日頃から笑顔を心がけ、分け隔てなく友達と接する児童を育てる。お互いに気持ちのよい1日1日を積み重ねることにより、豊かな人間関係を築く。
- (3) 感謝の気持ちを常にもち、「ありがとう」と伝えられる児童を育てる。人の役に立てたことへの喜びを感じることで、自己有用感や自己肯定感を高める。

2. 特別の教科 道徳

- (1) 児童の実態、教師・保護者・地域の願いに応じた道徳教育を推進する。
- (2) 豊かな道徳的心情、確かな道徳的判断力、着実な道徳の実践力の育成を図る。
- (3) 「富士見台小・道徳(19)の日」の活動を通して、親子のコミュニケーションの機会を増やす。
- (4) 「道徳地区公開講座」で道徳の授業を公開し、意見交流を行うことで、よりよい道徳の授業の構築を図る。

3. いじめゼロ、不登校児童ゼロ

- (1) 児童一人一人がもつよさに気付かせ、一人一人を大切にしたい学級経営を行う。
- (2) 教職員の人権感覚を常に磨き、あらゆる差別や偏見を無くす。
- (3) 児童本人や保護者の思いをしっかりと受け止め、親身になって話を聞く。
- (4) 連絡なく登校していない場合には迅速に家庭に連絡を取り、児童の所在及び欠席理由を確認する。
- (5) いじめ・不登校が疑われる場合には、組織で対応に当たり、関係機関等と連携して改善を図る。

「かがやくひとみ」の児童の育成のために

1. 学力の向上

学習の基盤となる「意欲」を高め、「話をしっかり聞く力」や「自分の考えをもつ力」を伸ばし、「主体的・対話的で、深い学びができる児童の育成」を図る。

- (1) 「学力調査結果の分析・課題把握」を行い、本校における各教科の重点事項を明確にする。
- (2) 学習用具の準備や授業規律のスタンダード化を徹底し、「基礎的・基本的な学力」の向上を図る。
- (3) 「教師主導型」「一斉指導型」の授業から、「対話的な学び」を取り入れた授業への改善を図る。
- (4) タブレット端末を有効活用した学習機会を多く設定し、情報活用能力の向上を図る。
- (5) 「総合的な学習の時間」の充実を図り、自ら設定した課題の解決に一人一人が意欲的に取り組み、満足感を得られることを目指す。
- (6) 学校行事、学級活動、児童会活動、委員会・クラブ活動、たてわり班活動等の特別活動の特性を生かし、各教科と横断的な関連を図る。
- (7) 「外国語活動・外国語」では、ALTを活用した「聞く」「話す」活動を通してコミュニケーション能力を高めるとともに、「読む」「書く」活動について授業改善を図る。
- (8) 個々の児童のニーズに応じた合理的な配慮を行い、特別支援教育の充実を図る。
- (9) 朝の「チャレンジタイム」を計画的に実施し、基礎学力、ICT活用能力、読書力等の定着を図る。
- (10) 学年・教科の状況によって教科担任制を導入し、教員の専門性を生かした授業を展開する。

2. 教員研修の充実

- (1) 「特別の教科 道徳」を校内研究の中心教科とし、「主体的・対話的で深い学び」や「より良く生きる人格の形成」の実現に向けた授業改善に全教員で取り組み、授業力向上を図る。
- (2) 主任教諭、主幹教諭を中心とした若手教員研修会を計画的に行い、若手教員の指導力向上を図る。
- (3) 豊島区小学校教育研究会の教科部会や近隣校の指導教諭による模範授業公開への参加を推進し、授業力及び専門性の向上を図る。

「未知にチャレンジ」する児童の育成のために

1. SDGs（持続可能な開発目標）プロジェクトの推進

- (1) 身近な環境に着目し、自ら感じ、疑問や問いを見いだし、調べ、まとめ、表現する活動を通して、よりよい未来環境に向け、自分ができることを実践する力を育む。
- (2) 学校図書館を「読書センター」「学習センター」「情報センター」として有効活用し、読書に親しみ、楽しみを見いだすことや、知識が広がることの喜びを通して、読解力、表現力を高めていく。

2. 多様性尊重教育の推進

- (1) ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包括性）にあふれた未来社会の実現に向け、様々な教育活動を通じて自分がどのように関わられるかを考えさせ、自分も他者も尊重する心情を育てる。
- (2) 外国の言語や文化に触れる機会を設定することなどにより、異文化に対する理解や関心を高めるとともに、我が国の文化や伝統についての学びを通し、日本人としての誇りをもたせる。

これらの取組を通して、以下に掲げる児童・学校を目指していく。

目指す児童像

- 友達と関わり合いをもち、仲良く遊ぶ児童
- 何事にも興味・関心をもち、自ら学ぶ児童
- 自分・他者・地域を大事にする児童

目指す学校像

- 児童が毎日登校したくなる学校
- 保護者が安心して子供を通わせられる学校
- 地域が誇りに思う学校
- 教職員が元気な学校